

2-1 東北地方の水準測量改測による傾動変化

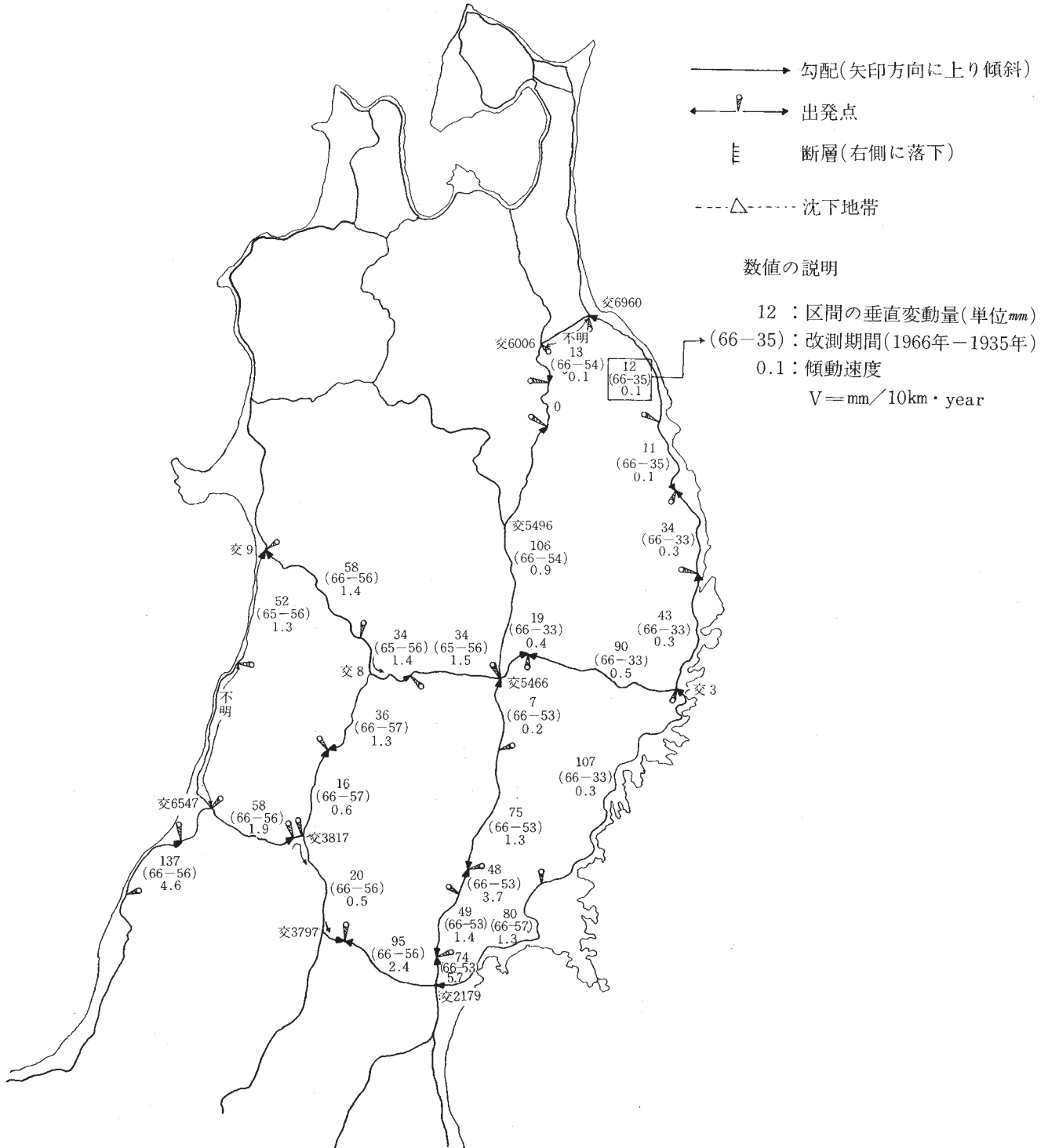
国土地理院地殻活動調査室

1966年に実施された東北地方の一等水準測量の結果が1969年8月「一等水準点検測成果集録第11巻」に発表されたので、これに基づいて同地方の傾動変化図を作製した。傾動変化図の一般的な説明は本会報第1巻に述べてあるので、ここでは省略する。図から大略わかることは、

- (1) 全体として三陸沿岸は内陸に比較して下がりである。
- (2) 三陸沿岸に沿っては大きな傾動変化はないが、相対的に石巻から宮古の北にかけてゆるやかな上昇が見られる。
- (3) 仙台附近の大きな沈降は人為的なものと思われる。
- (4) 秋田附近は明治以来上昇が持続していたが、今回の測量結果からもこの傾向が続いていることが分る。

三陸の沈下と日本海側特に秋田地域の隆起の具合を見るため、釜石（B.M.6817）から秋田（B.M.5784）までの代表的な点、5784、5774、6846、6830、6817の5点の動きを横手市南東のB.M.5550を仮不動点として第2図に示す。これによると、6817、6830、6846を含む北上山地は1933年3月3日の三陸沖地震（ $M = 8.5$ ）により1899年に対し6～10 cm程度隆起したが、その後は最近まで約3 mm/yearの割で下降している。一方横手、秋田を含む西半分については明治以来上昇を続け、その量は日本海に近づく程大きい。

第1図 東北地方傾斜変動図



第2図 東北地方釜石-秋田間の水準点経年変化図

